それは素敵な休暇の過ごし方　～１日目～

阿佐木 零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
それは素敵な休暇の過ごし方　～1日目～

【Ｎコード】
Ｎ２６３７ＢＡ

【作者名】
阿佐木　零

【あらすじ】
ｐｉｘｉｖにて投稿していた短篇集のひとつになります。突如として上司に休暇を言い渡された四季映姫だったが、暇の潰し方を知らないために困り果てる回です。

仕事の合間、上司に呼び出された私は呆然と

「は？」

と返すのが精一杯だった。

「いや、だからな」

上司はもう一度、今度は少しだけ歯切れが悪い口調で私に向かって告げる。

「君、明日からしばらく来なくていいから」

――君、明日から来なくていいから。

ふふ、なるほど。今この場で彼を消せば事実は消えてくれるのでしょうか？

「何か殺る気満々っぽい顔になってるけど、違うからね？」

そうして上司は訥々と説明し出した。

何でも、私の有給が溜まっているらしく、適度に消化してくれないと管理不行き届きになって罰せられるらしいのだ。

確かに有給は年に何日か消化していかないといけないのだけど……。

「君の――ほら、部下の死神は有給をいつも完全消費していくだろ

う？」

「彼女は有給を消費する事に関しては優秀ですから」

でも困った。

明日から急に休めと言われても……

「ちょうど明日から一週間、有給消費しちゃって。長期休みだし、ゆっくり身体の疲れを取るといいよ」

「はぁ」

思えば最近、疲れも溜まっていた。

身体を休めるのにはちょうどいいかもしれない。

「わかりました」

仕事は代わりの子に任せて、ゆっくり休むとしよう。

どうやら今日の私の仕事は、明日から引き継いでくれる子への伝達が主になりそうだ。

「じゃ、また来週ね」

「はい。お疲れ様でした」

こうして、降って湧いた休暇に戸惑いながら、私は自分の仕事に戻ったのだった。

□■

次の日。
休暇１日目の朝、私は見事に困り果てていた。
「……どうしよう」
朝ご飯も食べた。
身だしなみも整えた。
部屋の掃除は――いつもしてるから綺麗なまま。
「何もやる事がない」
普段なら仕事をしている時間に何もする事がない。
当たり前といえば当たり前なのだけど、どうしよう。
「うーん……吸血鬼の屋敷に図書館があったけど」
たまには本でも借りてゆっくり読みふけってみようかな。
普段は説教して回ってるくらいだし、たまには違う理由でもいいわよね。
それに――
「ついでに、ゆ、紫の家にお邪魔するっていうの」
「やっほー、映姫いるー？」
「ラストジャッジメントォッ！！」
閃光が辺りを包んだ。
□■
家が壊れていた。

破片だけを残して完膚なきまでに壊れていた。
主に私のせいで。
「うぅ……失敗したわ」
ボロボロになった家屋を見て、私はあんな程度で心を見だした自分に項垂れる。
反面、
「見事にボロボロねぇ。知り合いの大工でも呼びましょうか？」
なんて、呑気に言ってくれてるのが八雲紫。
自分の家でもないくせに、私の許可も取らずにさっそく大工を呼ぼうとしているようだ。
「お願い。とりあえず住めるようになればいいから」
でも家がないと生活も出来ないし。
家具とかはまぁ、後でまた直せばいい。
「おっけー。じゃ、行きましょうか」
そうして、紫はいつものようにひとりで納得して私の腕を引っ張ってくる。
「ちょ、ちょっとどこに行くのよ」
「ん？　住む家、どっかの家主さんが壊しちゃったでしょ？」

だ、誰のせいだと……。

「だからほら、私の家に泊まればいいじゃない」

「……えっ？」

「だーかーらー！」

紫はまるで先生かのように、人差し指を立て、片目を瞑って私へと向き直る。

「家の修理が終わるまで、私の家で一緒に住めばいいじゃないって事を言ってるの！」

紫の家で、お泊り……？

わ、私が紫の家でお泊り？

お、おと、おとま――

「ふふっ」

ぱくぱくと口を開く私に、紫は悪戯っぽく微笑む。

「まだ私は行くとは――！」

「はいはい。言い訳言い訳」

「だから言い訳では！」

そうして、固まった私を紫は軽々と連れて行く。

なんだか今回の休みは、少しだけ――いつもより楽しくなりそうな気がした。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2637ba/

それは素敵な休暇の過ごし方　～１日目～

2012年1月6日19時47分発行